

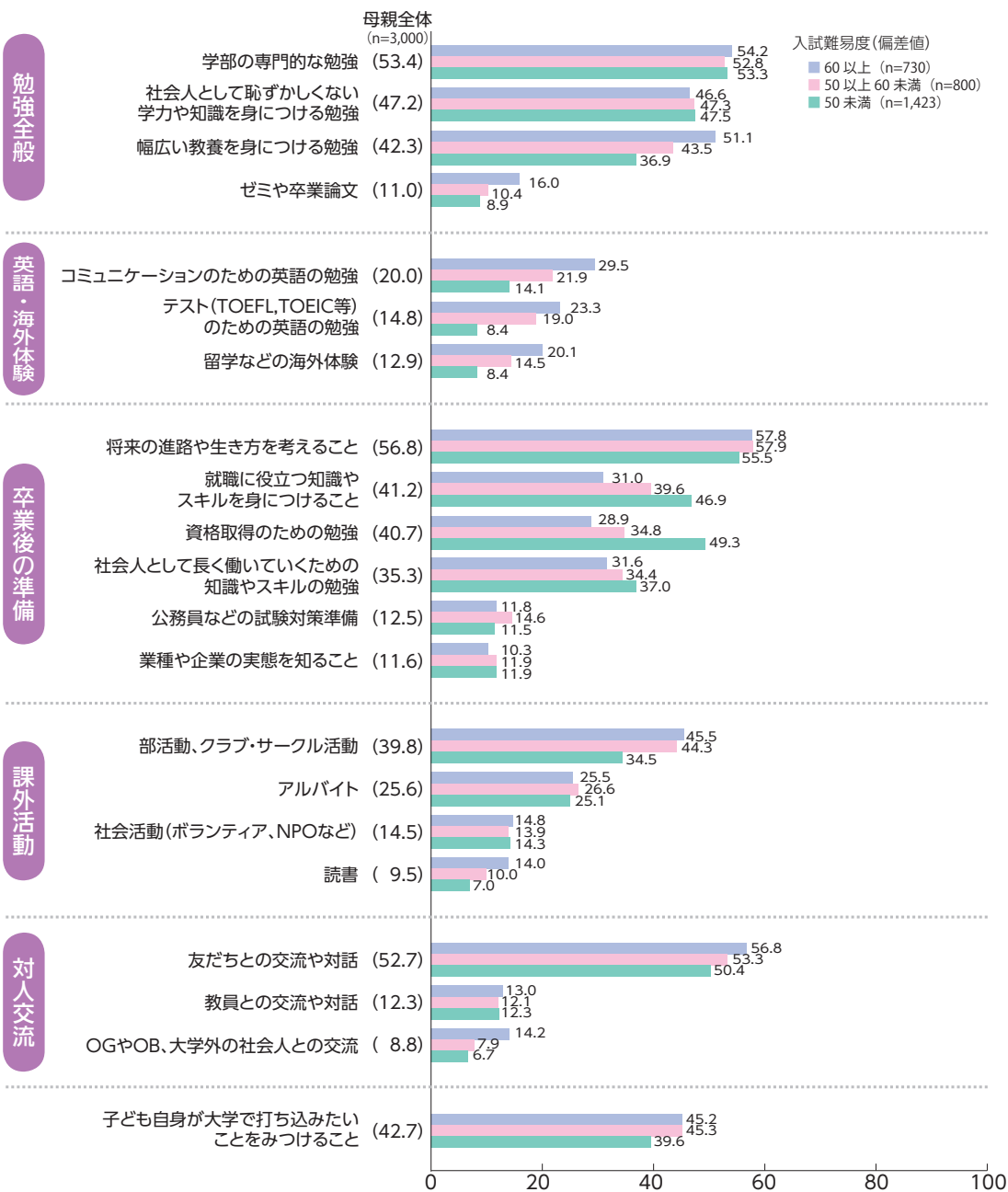
③ 大学時代に力を入れてほしいこと

「将来の進路や生き方を考えること」「学部の専門的な勉強」が、子どもの大学の入試難易度によらず、母親が力を入れてほしいと思っていること。

Q

入学時を振り返って考えると、あなたはお子様に大学時代にどのようなことに力を入れてほしいと思っていましたか。あてはまるもの全てをお選び下さい。

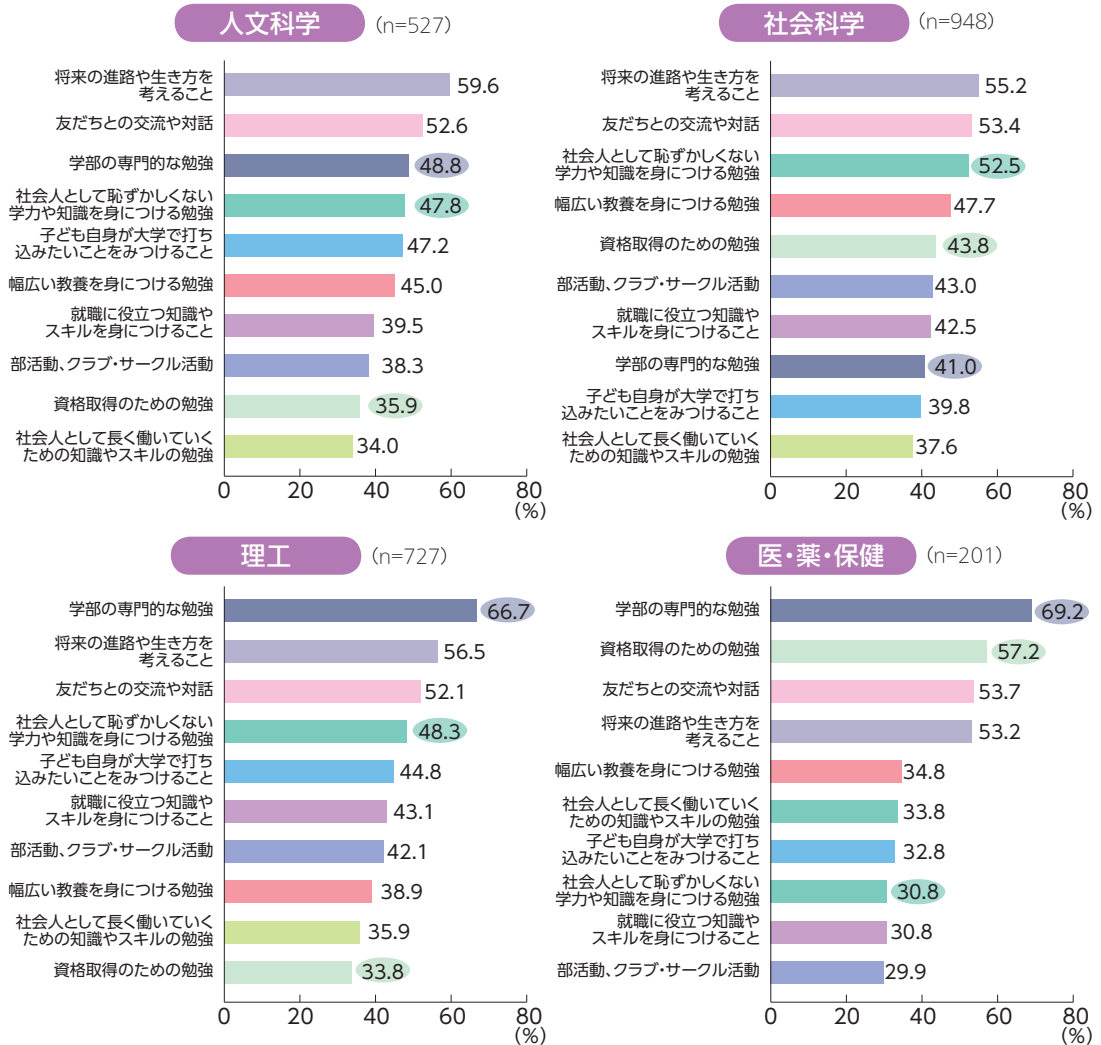
図3-1 大学時代に力を入れてほしいこと(母親・子どもの大学の入試難易度別)



注)この章(図3-1~2、図4-1)では、父親より母親の方が全体に回答選択率が高いことから、母親のデータで分析を行っている。

文系学部では理系学部と異なり「学部の専門的な勉強」よりも「将来の進路や生き方を考えること」に期待している。

図3-2 大学時代に力を入れてほしいこと(母親・子どもの大学の学部系統別)



注1) 網かけは、各学部間でポイント差の大きい項目

注2) 学部系統別の集計対象はサンプル数の多い4学部系統のみとし、その他は省略している。学部系統の詳細はp.3を参照。

大学時代に力を入れてほしいこととして、母親の選択率の高い項目は「将来の進路や生き方を考えること」(56.8%)、「学部の専門的な勉強」(53.4%)で、子どもの大学の入試難易度によらず高い。一方、「幅広い教養を身につける勉強」は入試難易度が高い大学ほど高く、逆に「資格取得のための勉強」「就職に役立つ知識やスキルを身につけること」といった卒業後の準備に関することは入試難易度の低い大学で高くなっている(図3-1)。4つの学部系統別にみると、「医・薬・保健」「理工」系統では「学部の専門的な勉強」が最も高く、それぞれ69.2%、66.7%であるが、「人文科学」「社会科学」系統ではそれぞれ48.8%、41.0%にとどまり、最も高いのは「将来の進路や生き方を考えること」(59.6%、55.2%)となっている(図3-2)。

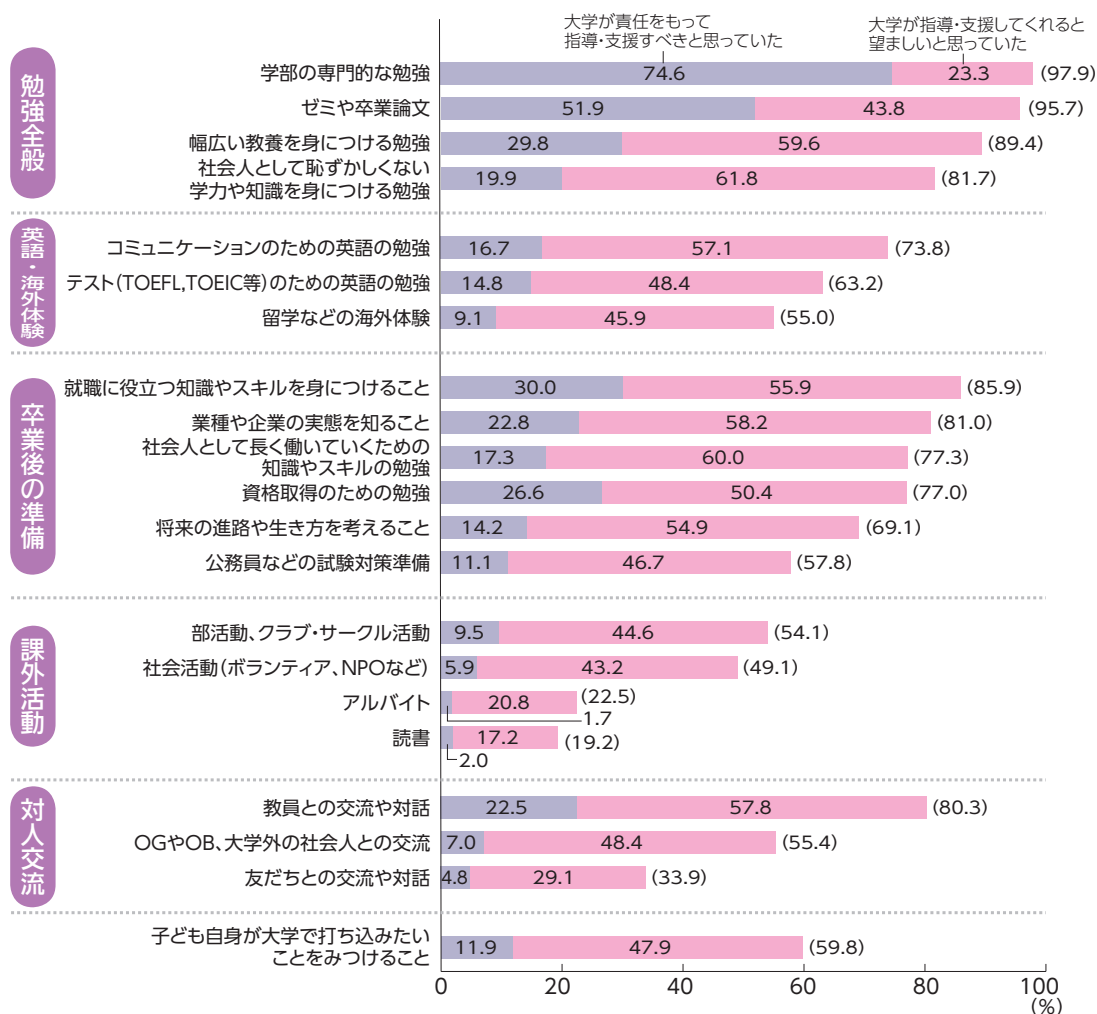
④ 大学での指導・支援への期待

就職に関する指導・支援への保護者の期待は高い。

Q

入学時を振り返って考えると、あなたは以下のことについて、大学がどれぐらい指導や支援をするのがよいと思っていましたか。

図4-1 大学の指導・支援に対する意識(母親)



注1) 選択肢のうち「大学に指導や支援は、全く期待していなかった」は省略している。

注2) ()内の値は「大学が責任をもって指導・支援をすべきと思っていた」「大学が指導・支援してくれると望ましいと思っていた」の合計値。

注3) サンプル数は3,000名。

大学での指導・支援に対して、選択肢「大学で責任をもって指導・支援すべきと思っていた」と「大学が指導・支援してくれると望ましいと思っていた」の合計値をみると、「学部の専門的な勉強」「ゼミや卒業論文」「幅広い教養を身につける勉強」といった大学の本来の役割を表す項目群の次に高かったのが、「就職に役立つ知識やスキルを身につけること」(85.9%)、「業種や企業の実態を知ること」(81.0%)といった就職の準備に関することであった。「就職に役立つ知識やスキルを身につけること」は「大学で責任をもって指導・支援すべき」と考えている割合が3割に及ぶ。